

県政
報告

ひでゆき通信
INSIGHT

慧眼

Vol.14
autumn
2024

【けいがん】「物事の本質を鋭く見抜く力」「将来を見通す能力」

立冬を過ぎ暦の上では冬となりましたが、体感上の季節はまだ晩秋といったところでしょうか？北日本や標高の高い山々から紅葉の報せが届き始め、温暖な平野部でも日中の気温が20℃前後となりシクラメンやパンジーなどこの季節の植物がきれいな花を咲かせはじめております。四季のある日本ならではの風情は、豊かな感性を育み文化や芸術を醸成していきます。旬の時期にいただくおいしい食材やそれを生かした風土料理も大切な文化であり、また季節ごとの楽しみの一つであります。

それにしても今年は特別に暑い夏でしたが、皆様はいかがお過ごしでしたでしょうか？40℃近い高温の日が続き、また雨が少なかったため、農業など天候の影響が大きい業種を営まれている方々は大変御苦労されたことと存じます。私は「浜名湖花博2024」の開会式の記念にいただいた



〈二天王立像〉東京国立博物館「神護寺—空海と真言密教のはじまり」より(本人撮影)

マーガレットの新品種「ビジューマムガーネット」を鉢植えにして大切に育てていたのですが、残念ながらこの夏の高温には耐えられませんでした。報道で取り上げられたため大きな話題となりましたが、新潟や山形などのコメどころでも「暑すぎて稲が枯れてしまう」といった被害が報告されており、コメ不足による米価の高騰を引き起こし、私たちの家計を直撃しました。本県特産のイチゴにおいては、夜間の気温が高いため花芽の分化が進まずその後の需要期を逃したり、ワサビでは水温が高いためワサビ苗の株の腐敗が起きたりするなど、生産現場は悲鳴を上げていると聞いています。また、花きの生産においても猛暑の影響は深刻であります。葉焼けや枯れ死など、暑すぎて夏越しのできない花や草木が出てきており、栽培農家の皆様の心中をお察しすると大変心配であります。

こうした問題への抜本的な対策として、高温耐性品種の導入が効果的であり、生産者も心待ちにしているのではないかと思います。もちろん品種の開発や改良には長い時間の研究や膨大な作業が必要で一朝一夕にはできませんが、本県の農業技術研究所の優秀な研究員が日夜努力していると聞いておりますので、他県に先駆けて高温に強い品種などを開発し、本県の優位性を獲得していただけるものと期待しています。



さて、過日は第50回衆議院議員選挙が行われ、与党の惨敗という結果となりました。「政治とカネの問題」に係わる説明が不十分で国民の信頼を失ったことが敗因と指摘されていますが、信頼の回復は容易ではありません。政府も含めこの結果に正面から向き合い、改めるべき点は大いに改める必要があります。一方で、物価高騰対策や賃上げの促進とそれに伴う中小企業対策、地震や風水害等の防災・国土強靱化対策など私たちの生活に直結する課題が山積しています。これらの多くが国と地方に共通した課題であることから、一刻も早く政治の混乱を脱却し国政の安定を取り戻してもらおうとともに、私たち県議会も真摯に喫緊の課題に取り組んでいかなければなりません。皆様の声を県政に反映するための努力を惜しまないことを改めてお約束いたします。



ビジューマムガーネット

より豊かな未来を！！

静岡県議会議員

市川秀之

コラム1 『次世代エアモビリティ』で見える未来

皆さんは次世代エアモビリティ（通称**エアモビ**）をご存じでしょうか？「空飛ぶクルマ」と表現した方がわかりやすいかもしれませんが。来年の大阪万博でデモフライトが予定されているなど、これから大いに発展が期待されている分野で、現在、世界各国で急速なペースで機体の開発や離発着場の整備、さらには安全上の基準や法律の整備などが進められています。本県磐田市に製造拠点を置く**スカイドライブ社**も「空飛ぶクルマ事業」のトップランナーとして日々エアモビ機体の研究と開発を進めています。わが国としても「**空の移動革命**」と位置づけて官民連携のもと新たな産業の創出のためのロードマップを策定しました。私たちの静岡県も今年から全庁を挙げたプロジェクトチームを設置し、先行する12都府県に追いつくべく**2027年度の商用運行開始**を目標に定めて取組を始めました。

エアモビはヘリコプターと比較することで、その特徴をわかりやすく知ることができます。

①電動垂直離着陸

電動で垂直に離着陸できる航空機が開発されています。

また、**電動の為、騒音を小さく抑えることができ、住宅街や夜間のフライトも可能**となります。これにより、都市間の移動が迅速化します。

②自動運転技術

自動運転技術が進化することで、**パイロットなしでも安全に運行できる**可能性があります。これにより、将来は操縦士の育成が不要となり運用コストの軽減が期待されています。



しかし、大いなる期待や夢が膨らむ一方で、空を飛ぶ以上ちょっとした故障やミスでも大きな事故になるという危険性もはらんでいます。機体製



次世代エアモビリティのイメージ（株式会社SkyDrive提供）

造事業者によるエアモビ機体の安全性の開発はもちろんですが、運行事業者や拠点運営事業者など様々な観点から研究し、レベルアップを図っていかなくてはなりません。そのためにもいくつかの段階を踏んで丁寧に構想を練り、**オール静岡体制で社会実装を構築**していく計画です。

ステップ① 限られたエリア・場所での商用運行（遊覧飛行）の実現

ステップ② 2地点間の移動サービスを実現

ステップ③ 2地点間の移動サービスを複数のルートやユースケースで実現



なお、現在、三菱地所㈱が御殿場プレミアム・アウトレット内に国の補助金を活用した離着陸場を整備しており、**令和7年4月以降に実機の飛行**を目指して準備中です。

このように遊覧飛行や観光地間の移動、物流への活用など平時における産業面での利活用はもちろんですが、有事の際にも**エアモビ**の能力は大いに期待されるものがあります。2024年1月の能登半島の地震や夏の豪雨災害でも明らかになったように、私たちの静岡県においても中山間地や半島における輸送路の寸断による災害孤立は大変大きな課題です。そういった**災害時における孤立集落の救助や救援、復旧**にドローン技術の活用が叫ばれていますが、より大型で輸送能力の高いエアモビがさほど遠く



次世代エアモビリティ(エアモビ)とは

優位性（ヘリコプターとの比較）

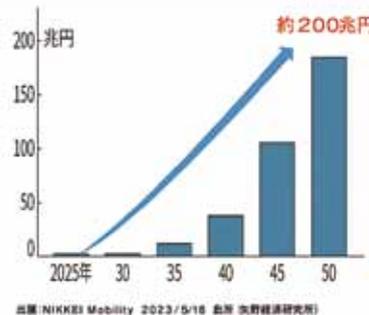


移動手段として一般化する可能性を秘めている

維持コストの低下により、運航コストが安くなると共に、騒音等が小さくなることにより社会（近隣住民等）からの理解を得やすい

出典: Bell Helicopter, <https://ja.bellflight.com/global/> (参照2024年4月16日) 他社社HP等

市場の急伸



プロジェクト全体像

新たな価値の創出と社会課題の解決
～オール静岡で創る次世代エアモビリティ先進導入地域～



「ユースケース別社会実装の促進」と「関連産業振興」の両輪で取組を推進

ない未来に社会実装されれば、これまでにない安心な社会が期待できます。**命を守ることは地域を守ること**につながり、それは何よりも今後の**人口減少社会の課題解決**の一助となり得るのだと思います。クルマが自由に空を飛ぶ、かつてSF映画で見たような近未来の世界が、もうすぐそこまで来ているのかもしれないね。

コラム2 浜名湖のアサリ復活プロジェクト

浜名湖は海水と淡水の入り混じった汽水湖で、山からの栄養が都田川をはじめいくつもの川を下って流れ込み、魚介類のえさとなるプランクトンを育てます。その恵まれた環境で育った浜名湖産のアサリは、サラサラの砂泥箇所です。そのため、砂もほとんど入らず味も良いことで知られています。静岡県西部地方は古くより浜名湖から様々な恩恵を享受してきました。中でもアサリは、食や産業、観光などを支える重要な資源です。その**浜名湖のアサリ**が現在、**危機的な状況**となっています。漁獲量は2009年の約6千トン



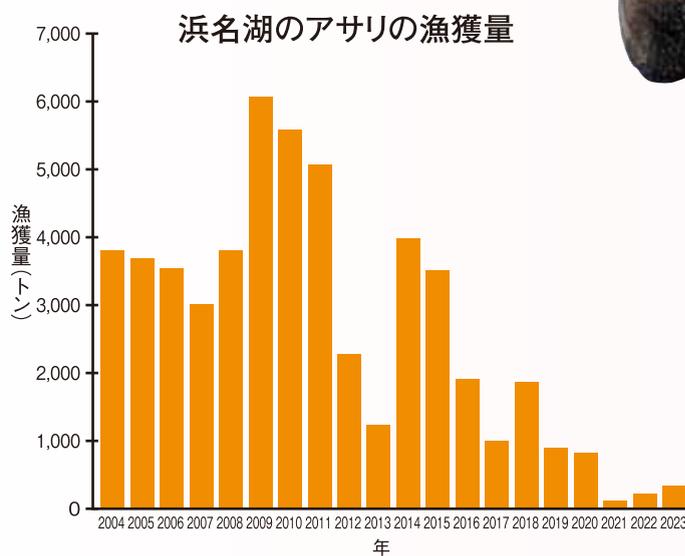
浜名湖でのアサリ漁

をピークに減少を続け、2021年には約百トンにまで減ってしまいました。以前はスーパーなどでごく自然に手にしていましたが、近年は殆ど目にすることがなくなりました。また、初夏から夏の楽しみである潮干狩りは**6年連続で中止**となりました。

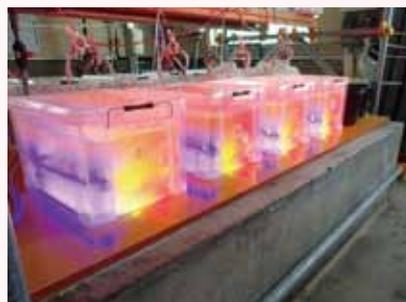
いったいなぜこのような事態となったのでしょうか。県によると、アサリ資源の減少は、餌となる植物プランクトンの不足による**産卵数の減少**、潮流の変化によるアサリ幼生の**遠州灘への流出**、**クロダイによる食害**などの複合的な要因が関連しているということで、何か一つをクリアすれば資源量の回復につながるのではないか状況です。このため、県では垂下飼育による産卵の促進と碎石を敷いた稚貝の隠れ場所の造成による稚貝の着底率の向上、クロダイの食害から防除するための被覆網の設置など産卵から親貝までの**生育環境の整備**に取り組んでいるということです。

年	年	漁獲量(トン)
H16	2004	3,841
H17	2005	3,736
H18	2006	3,405
H19	2007	3,029
H20	2008	3,862
H21	2009	6,008
H22	2010	5,483
H23	2011	4,776
H24	2012	2,432
H25	2013	1,404
H26	2014	4,127
H27	2015	3,437
H28	2016	1,901
H29	2017	968
H30	2018	1,798
R1	2019	872
R2	2020	707
R3	2021	100
R4	2022	196
R5	2023	363
R6	2024	0.18

※9月までの集計値



そのような中、現在浜名湖では民間企業や地元漁業関係者に県も加わって壮大な**アサリの復活プロジェクト**が進行しています。このプロジェクトは、アサリの産卵から稚貝の育成までを室内で管理し、そこから育った人工種苗(約5mm)をカゴの中に入れて、放流しても生残率が高まるサイズ(1.5cm程度)まで成長させ、最後に浜名湖内砂地に放流するというものです。いわば「**アサリの人工増殖**」による資源復活の取組で、私も何度か視察させていただきました。今年になってようやく一筋の光明が見えてきたといえるところまでできています。一般的な魚の養殖であればふ化したばかりの稚魚であっても固形のえさで育成が可能ですが、稚貝についてはプランクトンでないと育てることが困難です。良質なプランクトンを安定的に手に入れるために、**浜松ホトニクス株式会社**はその**光技術**を応用し、4年をかけてプランクトンの中でも特に栄養価が高い「**パプロバ**」の安定した培養に成功しました。パプロバはアサリが好む一方、培養が非常に難しいということです。このプロジェクトはこうした民間企業の高度な技術に裏付けられた研究と牡蠣棚の提供や**飼育カゴ(浜名湖版かぐや)**の日常管理など地元漁業関係者の協力によって成り立っている実証実験であります。



パプロバの培養

私は、**浜名湖における漁業の振興と地域の活性化**のためこのプロジェクトを是非事業化に漕ぎ着けてほしいと切に願っておりますが、現在は実験段階であり浜名湖でのアサリの生育については**乗り越えなければならない課題**が多いと聞いています。

それでは県はこのプロジェクトとどう関わり、アサリ資源の回復に向けて具体的にどう取り組んでいくのでしょうか。

まず、このプロジェクトが浜名湖内での実証実験を行う段階となったため、**県の水産・海洋技術研究所浜名湖分場**(以下「**浜名湖分場**」)では、浜名湖の水温や栄養塩のデータを提供し、民間企業や漁業者と共に、実証場所を検討してきました。今年度からは、環境が異なる浜名湖内の4か所に、水深を3段階に分けて稚貝育成装置を設置する現場実証が始まったところ。今後も、稚貝の育成状況と浜名湖分場の環境データを照合し、検証することによって、育成場所の最適化を図っていくということです。

また、**アサリを捕食するクロダイ**については、近年の温暖化の影響か浜名湖内で越冬することが当たり前のようになっていて、他に天敵もいないため大きく数を増やしています。そのため人間による捕獲が有効な手段ですが、生食に適さないことや1キロに満たないものは市場で値段が付きにくい、小型のクロダイの利用方法に加え、効率的な捕獲と流通や消費拡大など有効利用の仕組みづくりを関係団体等と連携して検討していくということです。



漁獲されたクロダイの稚魚

浜名湖のアサリ資源の回復に向けては、民間企業や漁協関係者、県や浜松市のほか飲食店関係者など多くの方々が熱い思いで取り組んでいます。私も微力ながら、大好きな浜名湖のアサリの資源の回復に向け尽力してまいります。



アサリの稚貝



浜名湖版かぐや引き上げ



浜松ホトニクスアサリ垂下試験の説明を受ける

1. 知事の人づくりに関する考え方について

Q 県はこれから新しい総合計画と教育に関する大綱の策定を進めていくと考えるが、知事の人づくりに関する基本的な考え方は。

A 人づくりに関する考え方については、新しい「教育に関する大綱」に盛り込んでいく。本県の未来を担う人づくりに全力で取り組み、全ての人が自らの夢をかなえ幸せを実感できる「幸福度日本一の静岡県」を目指していく。

2. 災害に備えた文化財の保存について

Q 能登半島地震では、有形無形のさまざまな文化財が被害を受けたが、県の災害に備えた文化財の保存に関する考え方と取組は。

A 文化財の堅牢化は、現在作成している保存計画に基づき、適時・適切な修理を支援していく。国・県指定文化財である仏像彫刻32軀の3次元データの取得を進めることで被災後の復元に備えるとともに、文化財を守る専門人材の確保と技術力の向上に努めていく。

3. 若年層をターゲットとした移住・定住の促進について

Q 子育て世代を含む若年層をターゲットとした移住・定住の促進に向けて、県はどのように取り組んでいくのか。

A 移住検討層だけでなく移住関心層へのアプローチが必要で、農業体験に関するセミナーや首都圏の若年層をターゲットとしたWeb広告などを実施し、多彩なライフスタイルを実現できる本県の魅力を積極的に発信していく。



4. 気候変動に対応した農作物の新品種の開発について

Q 近年の記録的な暑さは農作物に深刻な被害を発生させており、気候変動への耐性品種の開発・育成が重要と思うが、県の取組は。



A ワサビでは「ふじみどり」を、みかんでは「春しずか」を開発し、県内生産者へ普及するとともに、県が保有する茶やイチゴ等の遺伝子情報をデータベース化することで、品種の選抜を効率化し、品種開発のスピード化を図っていく。

5. 浜名湖のアサリ復活に向けた取組について



コラムをご参照ください。



6. 横断歩道の適切な整備について

Q 県内における横断歩道の新設や撤去に関する県警察の具体的な考え方と今後の取組の方針は。

A 警察庁が示す交通規制基準に基づき、必要な交通安全施設等を将来にわたり整備し、適切な維持管理・更新等を継続していくため、交通規制の不断の見直しを行い、交通実態に適合した交通環境の構築を図っていく。

常任委員会

「文化観光委員会」

今年度は副委員長を務めさせていただきます。



文化観光委員会は、スポーツ・文化観光部の所管に属する事項を担当します。静岡県の文化や観光の振興に関することなどについて調査・審査します。

Topics

県の施設紹介

水産・海洋技術研究所浜名湖分場

閉鎖系内湾のモデルとして注目されている浜名湖には、東京大学の水産実験所(弁天島)とともに、静岡県の水産・海洋技術研究所浜名湖分場(以下「浜名湖分場」)が設置されており、種苗生産や増養殖等の水産技術、魚類の生態や生理等に関する研究拠点となっています。



研究棟玄関



正面入口

浜名湖分場の歴史は古く、明治37年に新居町(現在の湖西市)に設置された水産試験場養殖部が起源となります。明治43年に廃止されましたが、昭和9年に舞阪町弁天島蓬莱園に水産試験場浜名湖分場として開設され、浜名湖をフィールドとした県の水産技術に係る調査研究が再開されました。昭和40年に弁天島乙女園へ、そして平成12年8月に弁天島渚園に新築移転され、浜名湖について学べる体験学習施設「ウオット」を併設する現在の施設の形となりました。

浜名湖分場には現在、分場長以下7人の職員が勤務しており、ウナギの養殖や浜名湖をはじめとした沿岸漁業に関する調査研究のほか、経営改善や後継者の育成などの水産業改良普及事業を行っています。

浜名湖分場の主な施設を見ていくと、水槽実験棟は水温を調整できる恒温水槽が大小32面あり、主にウナギの人工種苗生産や魚病などの研究を行っています。ハウス加温棟は温水ボイラーにより加温飼育が可能で主にウナギの研究を行っています。FRPタンク棟と露地池はアユ、ウナギなどの淡水養殖魚やトラフグなどの遠州灘の魚、浜名湖の生物の飼育に使用しています。また、研究や飼育に使用する海水はポンプにより180m沖の水深5mから取水するとともに、淡水井戸は380mの深さから汲み上げています。



ハウス加温棟内部

コラムで紹介したアサリの研究についても精力的に取り組んでおり、「浜名湖における垂下式養殖によるアサリの肥育技術」などの研究成果が浜名湖分場のホームページに掲載されているので、関心のある方はご覧いただきたいと思ひます。



水産業に携わっていて技術や経営などの悩みや課題をお持ちの方、また水産業に関心のある方は是非、身近な県の機関として浜名湖分場を御活用いただきたいと思います。

【浜名湖分場の連絡先】

〒431-0214 浜松市中央区舞阪町弁天島5005の3
電話 053-592-0139

静岡県議会議員

市川秀之

プロフィール

昭和41年11月20日生まれ
家族構成:妻・2男1女
趣味:ゴルフ・カメラ・文化芸術鑑賞
静岡県立浜名高校 卒業
日本大学経済学部 卒業
市川産業(株) 入社 現 代表取締役
学校法人北浜学園 北浜幼稚園 理事
平成18年度 (社) 浜北青年会議所 理事長
平成19年度 浜松市伎伎小学校 PTA会長
平成21~24年度 浜松市PTA連絡協議会 副会長
令和元年 静岡県議会議員当選(1期目)
令和元年度 文教警察委員会 委員
令和2年度 文化観光委員会 委員
令和3年度 建設委員会 副委員長
議会運営委員会 委員
総務委員会 副委員長
令和4年度 移住・定住等促進特別委員会 委員
令和5年 静岡県議会議員当選(2期目)
令和5年度 産業委員会 委員長
令和6年度 文化観光委員会 副委員長
令和6年度 人口減少社会課題対応特別委員会 委員



おかげさまで、この県政報告「ひでゆき通信 INSIGHT~慧眼~」も Vol.14 となりました。
バックナンバー (Vol.1~Vol.13) をご希望の方は 市川秀之事務所までご連絡いただければお届けします。

ご意見・ご感想をお聞かせ下さい。

【市川秀之事務所】
〒434-0013 静岡県浜松市浜名区永島577
TEL053-443-8700 FAX053-443-8703

【静岡県議会 自民改革会議 控室】
〒420-8601 静岡県静岡市葵区追手町9-6
TEL054-221-2566 FAX054-221-3379

<http://www.ichi-hide.com/index.php>

[E-mail] hide-ichikawa@mth.biglobe.ne.jp

